



白鳥法子 議員

安心して出産・
子育てができるように

**出産時のもしもに備えた体制
づくりの提案**

問 妊婦の情報を事前に消防署に登録することで、緊急時に迅速に救急車で出産予定医療機関に搬送する仕組みが、産科のない他自治体の事例にあります。もしもの時を考えると妊婦の不安解消に役立つため、本町でも検討してはどうでしょうか。

答 救急時には、他の救急事例と同様に産婦人科のある二次・三次の救急医療体制が整備されており、現時点では事前登録は不要と考えています。

ファミリーサポートセンター事業の導入予定は？

問 近くに頼れる親族や友人がいない家庭でも「いざという時に頼れる場所がある」という安心感があります。

事業化のイメージやスケジュールはありますか。

答 ニーズ調査の結果、必要見込み数は16世帯で、国の設置基準（会員数50人以上）を満たさず単独での設置は困難です。

事故による損害賠償の事例があり、有資格者で実施する既存の事業が利用できるといった意見もあったことから、令和6年度以降の実施を目指します。

問 そもそも子供が少なく事業の認知度も低いためニーズ件数が少ないのでは？すぐに導入できないのはわかるので、一時預かりなど既存のサービスを手軽に利用しやすくしてほしい。

答 一時預かり、子育てショートステイ、延長保育、病児・病後児保育等は実施しているのので、気軽にご相談いただきたい。

わかりやすい情報発信を

問 出産・子育てのイメージが湧くように、島の実情、段階に応じた支援策が一体的にわかるような情報発信をしてほしい。

見直しの際には外部の視点や利用者側の目線も入れ、せっかくある支援が伝わるように工夫してもらいたい。

答 冊子を作成し町内各所に設置・当事者に配布しています。

また、町ホームページに、子育て支援全ての最新情報を掲載しています。

わかりにくいところがあれば、見直しの際には色々な意見を取り入れていきたい。

公共交通の充実と利用促進

今後の公共交通の確保・活用促進について

問 具体的な考えは？

答 地域公共交通の維持改善は、まちづくりの一環として進める必要があります。

策定中の総合計画の中で議論をし、具体的な計画を検討します。

その際は実証実験等を行い、より利便性・効率性の高いものにした。

要望 色々な段階で利用者の意見を聞き、試行・改善というステップも踏んで持続可能な仕組みとしてほしい。

4月から運行される一般混乗型スクールバス森野・油田線での試行料金の可能性について

問 テストケースとして、後期高齢者や運転免許返納者の乗車料金の上限を設定し、利用促進を図るなどの可能性はないでしょうか。

答 混乗型バスと防長バスを利用する方がおり、格差を避けるため同じ料金体系で考えていますが、今後検討の必要があると考えています。



平野から油宇へ向かう防長バス車内